

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	総合政策研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 建築士コース等のカリキュラム上必要となる実習環境を整備する	→機器・備品の購入数		A			
2. 共同研究室の院生利用マニュアルを策定するとともに、利用者の満足度を向上させる	→マニュアル策定の有無、アンケート調査による満足度		D			
3. 教員に対して外部資金導入を奨励する	→外部資金の獲得件数		B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目9.0.4	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 (方針) 大学院生の研究活動を推進するための共同研究室を整備して、有効に活用する (説明) 博士課程前期課程と博士課程後期課程の大学院生のため、それぞれ共同研究室を設けて、PC、プリンタ、コピー機等を適宜配置している。
その他	外部資金の獲得については、例えば2010年度の科研費新規申請率が26%、同採択率が27%で、10学部中それぞれ5位、6位にとどまり、さらなる努力が必要である。

《評価指標データ》

- 専任教員の研究費(実績)【大学基礎データ】
 専任の研究旅費【大学基礎データ】
 学内共同研究費【大学基礎データ】
 教員研究費内訳【大学基礎データ】
 科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】
 学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】
 外部資金等導入状況【基本的な指標データ】
 教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】
 学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】
 学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】
 学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】
 留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	共同研究室以外にも、建築士コース等のカリキュラム上必要となる実習環境を整備して、必要な機器・備品類を配置している。
	その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	共同研究室の使用をさらに活発化するため、ドーナツアワーの開催等で教員・大学院生間もふくめて、交流を図る。
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	共同研究室の利用を促進するため、院生利用マニュアルを策定する必要がある。
	その他	引き続き外部資金獲得の奨励をおこなう。

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	共同研究室の利用マニュアルの整備や図書資料の充実などを図り、大学院教育の活性化を図る。あわせてドーナツアワーの開催や、リサーチ・コンソーシアム、リサーチ・フェアでの発表の義務化等によって、大学院教育の活性化を図る。
	その他	リサーチ・プロジェクト等の共同研究の推進によって、外部資金の獲得を図る。

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	外部資金の獲得努力(申請率)ならびに獲得実績(採択率)において、総合政策学部は必ずしも満足できる状況ではない。このため、共同研究の推進等も通じて改善の努力を続ける。
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○外部資金の獲得に向けた努力が実を結ぶことが期待されます。共同研究室の利用促進については、更なる工夫が望まれます。

【学内委員】

○大学院生のための共同研究室の整備は必要なことです。その充実のための方策の発見とその実現が期待されます。また、改善すべき事項において記述されていますが、外部資金の獲得のための継続的な努力が必要です。

○どこの学部も不足していると思いますが、多岐にわたる研究をされているので、資金獲得の一層の努力が期待されます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

○小項目9.0.4&9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★	2013年にKSCコモンズが完成することをめどに、KSC1号館、2号館の中で必ずしも有効に使われていないスペースを利用、大学院生の研究活動の活発化をはかりたいと考えています。 外部資金の獲得についても、ご指摘の通りで、研究活動の活発化と連動して、積極的な対策をとりたいと考えています。
---	---